

全同教前日全体学習後の参観者の意見・感想

森口先生とは同じ出身教師という立場での出会いがあり、全体学習の最初からの資料を読ませていただいています。一度、生の授業を見てみたいと思っていたところ、念願がかないました。実際に授業を見学し、やはり「すごい」の一言でした。私が教員になって見たもので一番すごい授業でした。

私は今36才ですが、大学の4年になるまで部落出身ということを知りませんでした。部落問題そのものも大学に入り初めて知りました。小中高と同和教育を受けた経験はまったくなく、愛媛県そのものが運動がおくれているうえに、私の生まれたところは運動らしい運動はなく、学習会もありませんでした。大学4年の時祖母の口からたまたまもれた「ここが部落じゃ」という言葉で自分の立場を知りました。そのことをきっかけに何かおかしいと感じていた小学校からの疑問がとけました。それまでに差別との出会いがあったのですが、これではっきりと理解できました。

大学を卒業し、すぐ教員になったのですが、周囲に仲間がいることなどまったく知らなかつたのですが、ある人の紹介で出身教師の会に参加することになり、学習を深め運動に参加するようになりました。その後教師になり4年目に職員会で部落民宣言をし、現在3校目ですが、どの学校でも立場は明らかにしてきました。ほとんど活動らしいものがない学校で7年間解放劇に取り組んだり、教師の意識を変えるための資料づくり、差別事象に対する取り組みをしてきましたが、部落を知らせないという地域に勤めていましたので、部落の生徒とのかかわりは不十分なものでした。今の地域も部落の子たちと直接のかかわりができる地域ですが、数人の仲間とそれを打破できるかどうか何かやってみようと相談をはじめたところです。

今でこそ「部落に生まれたことがどうしたんぞ」と言えるようになりましたが、教員になった頃は仲間がいることも知らず心細いかぎりでした。ですから、仲間がいかに大切かということは大変重要なことだと思います。板野では学習会や全体学習で本物の仲間を作っていくことができると思います。同和教育は具体的に動いてナンボの教育ですから、これからもすぐ動ける仲間を育てていただければと思います。（私は差別に負けない教育をしてもらったことがなく、多くの人の出会いの中で自分を変えていくしか方法はありませんでした。その点で板野の子は恵まれていると思いますし、ありがとうございます。）

それから、あまりこだわることなく部落出身を語ることができたのは、仲間の存在が不可欠ということの他に、視点を変えた同和教育に出会えたことでした。「被差別の思いに共感する」ということから、自分の被差別体験を語ることで多くの先生方に共感してもらおうとしてきましたが、自分の（教師自身の）差別意識に気づくというよりは同情から動いた人が多かったように思います。ですから、部落民宣言をはじめたところは、相当しんどい思いをして、出身教師の責務のように感じて自分を語っていました。「ワシにこんな思いさせとん誰じゃー」と言いたい気持ちをおさえて、仲間を増やすためにやっていました。

ところがあるときに「差別は、差別を受ける側の人にはしんどい思いをさせるだけでなく、差別をする側の人間性をグチャグチャにする」として、差別する人間の醜さに重点を置き、被差別の側は何の責任もなく、丸ごとプラスに感じる講演に出会いました。「被差別の思いに共感」ということももちろん入っていますが、「あんな醜い人間（差別者）になりとーない」、そのため同和教育をやっていくんやという考えに共鳴し、心につかえていたものがスッピとれました。これがわずか3～4年前ですが、今はこの視点も取り入れた同和教育の教材づくりを考えています。

今年から定時制の高校に転勤し、前任校でやっていた解放劇の台本を今年は書きませんでした。定時制では制約が多く解放劇はできませんが、どこかでできるかもしれませんからこの冬休みくらいから書こうかと思っています。

板野中学の取り組みを見ていたら愛媛の取り組みは恥ずかしいかぎりです。教員どうしの関係も仲間と呼ぶにふさわしいものがあり、うらやましい感じがします。しかし、他の学校をエエナーーと思うだけじゃ何も前進しませんから、私にできることに取り組んでいきたいと思います。

差別に何度も出会ってきていますので、私の心の中にも板野の子たちと同じぐらい解放にかける熱い思いがあります。

今回の出会いは本当にありがとうございました。熱い思いが一層熱くなってきました。心からお礼申し上げます。ありがとうございました。また機会がありましたら参加させていただけたらと思います。

敬具

愛媛県新居浜西高校

生徒・先生方の本音で語り差別をなくしていこうという思いを強く感じました。子どもたちの鋭い感性と仲間づくりの取り組みのすごさを感じました。本当にありがとうございました。

鳥取県 湖南中

生徒一人ひとりの思いが私自身の中に残っています。この場だけの思いになることなく、鳥取に帰っても私の生徒と共に闘っていこうと思いました。社会意識の中にある差別意識。自分を卑下することは、その意識を認め差別を肯定することになることをいつも生徒と話し合っています。生徒が自分の思いをこのように語れるよう努力していきます。今日は本当にありがとうございました。

鳥取県 湖南中

箇条書きでかきます。

- ・ 先生と生徒が対等というか、先生が生徒を一人の人間としてみている。まずそこがスタートだ、基本だと思う。
- ・ 全体でこれだけの意見を、心の底の考えを言えるということはすばらしい。ここまでこれたのは各学級の取り組みの成果。
- ・ 子どもが大人に言える（親のまちがいを正せる）ところまで高まっている。
- ・ 3Bの生徒の話の中で「今日、来てない子がいる」という話があった。そのところがこれからのは課題だろうし、何かしらちょっとホッとしました。（決して“ざまあみろ”という気持ちではなく、板野中のみなさんのがんばってという意味で）
- ・ すばらしい全体学習を参観できて感動しています。この感動を学校に帰ってどう生かしていくか苦しんでいますがムダにしたくありません。

ありがとうございました。

香川県

板野中の全体学習を見ていて私自身の部落問題学習に取り組む姿勢をうりかえることができた。自分はまだまだ未熟だけど、何か自信がわいてきました。

授業を見ていて、これらの学習を通して部落差別の解消が第一の目的だと思いますが、それと同時に生徒たちの心がみがかれているのがよくわかりました。ありがとうございました。

城北小学校

生徒の皆さんのが発言の中に、正直にとか本音でとか、心をさらけ出してという言葉が何度もありました。私の生き方を見抜かれたような言葉でした。

自分の心の中のきたなさを見つめ、さらけ出してこそ差別に立ち向かえるのですね。40才近くになった私にとってとてもつらいことです。

ましてや13~15才の子どもたちにとってはどんなにか、きびしくつらいことでしょうか。明日からの私の生き方を今夜は見つめなおしたいと思います。

本当にありがとうございました。

主婦

この会の中である生徒が“差別をなくすということは自分を本当にさらけだす、自分の本音を語るということだ”と言われていた言葉が印象に残っています。自分の本音を語ることは難しいけど大切であるし必要であると思うし、りっぱであると思います。

この授業をビデオでとりました。このビデオは部落問題解決に向けての教材として扱いたいと思います。どうもありがとうございました。

香川県 古高松中学校

初めて全体学習を見せてもらいました。生徒のがんばりはすごいと思いました。しっかりした考えをもっている生徒もいるし、そうでない生徒もいたけど、関係なく自分の思いを一生懸命語る姿はすばらしいと思います。やはり部落差別を考えていく中で、自分を問いかなおすことができる部落問題学習のすばらしさを感じました。ただ気になったことを言わせてもらいますと、5時間目の先生の発問等や授業のすすめ方に疑問が残ります。部落問題学習をすすめていくうえで、教師も一人の人間として自分の気持ち等を語らねばならないのではないかでしょうか。生徒も尊敬できる一人の人間として授業をすすめていたのか疑問が残ります。

今日はありがとうございました。人間ってすばらしいですね。

香川県 鶴尾中学校

部落問題解決に向か行動することによって自分のうみを出し、うみを出しつつ行動する。今日の学習を通して今の私が決意したことです。

「部落でも関係ないで。」私が主人と結婚することを、とても仲がよかつた友人に言ったときに言われ、私はショックを受けました。そのときは今よりももっと弱かった私はいろんなことをその人に聞いてもらひたかった。「その人もりっぱな人なんだろ。大学も出てご両親もしっかりした人たちなんやろ。」その時私は何も言えませんでした。イライラしつつもムシャクシャしつつも言葉にすることができませんでした。

長いことその友に対して私はそのことをこだわり続けていましたが、今考えてみると逆の立場だったら私はどうだったろうと思います。

主人と結婚してからもドロドロの差別の中で半ば私は投げていたように思います。今も私は母と部落問題について話し合うと必ずのしり合いとなり、最近は私のほうでこの問題をさけています。

このあきらめの感情の中に今日の子どもの発言の中にあった母親と同じ意識、「私は出身ではない。子どもも半分は違う。」という意識が全くなかったとは言いきれない・・・と今日気づきました。

子どもたちに恥ずかしくないよう闘っていこうと思います。

徳島県 上八万小学校

同和教育こそ教育の原点です。授業においても部活動においてもその気持ちを忘れず持っておられます。また部落の生徒の学校での活動にふれるたびに、その気持ちが一層強くなり私の教師としてのエネルギーが一層わいてきます。

同和教育イコール私の教師生命といって過言ではありません。今日も学校にお願いして急ぎ

よ来させてもらいました。

子どもとのかかわりはテクニックやことばでない。人間のにおいとにおいのかかわりあいだと思います。ごまかしのきかない子どもにとってうそのないエネルギーをこれからもぶつけていきたいです。今日はどうもありがとうございました。

愛媛県 宮窪中学校

生徒たちのふるさとに対する真剣な思い、部落問題学習に対する考え方や願いをまのあたりにして改めて部落問題学習の深さを考えさせられました。

私自身は日頃忙しさを言い訳にして、部落問題学習に十分に取り組んでいませんでした。今後少しずつでも取り組みを続け、自分の部落問題に対する意識を高めるとともに我が校の生徒たちと部落問題について考え方差別解消に立ち向かっていきたいと思います。本日はありがとうございました。

徳島県 岩倉中学校川原柴分校

板野中の取り組みについて「峠を越えて」、またビデオを見て、今日は楽しみに来ました。生徒に力をつけてもらって今日は帰ります。

板野を誇りに思えない姿を身内の者の差別意識や本音の部分に、生徒自身がんばって見つけ出したことは、差別解消への闘う本当の相手を見つけ出してすばらしいことだと思います。

参観者として発言したいこともあり、他の参観者の発言を期待していたのですが、今後ぜひ交流していきたいと思います。

ひとつ教師の共感の姿勢も求めたいです。見つめて聞く姿を少し求めたいような気がします。自分にはできませんが言葉がやや難しい気がしますが。それを生徒ががんばっていることでおぎなっているし、板中の生徒はすばらしいと思いました。ただ、ここまで育てる教育全体に板野の先生方のすばらしさを思います。

香川県 鶴尾中学校

一人ひとりがしっかりと意見をもち、それを多くの生徒の前で語れるというのがすごいと感じた。

部落外の生徒が何%ぐらいいるのかわかりませんが、部落外の生徒の意見が少なかったように思いました。

鳥取県 湖南中学校

今日は貴重な授業を見せていただきありがとうございました。生徒たちの思いを語る姿を見せていただく中で、子どもたちが本当に板野中に学ぶことを、板野に生まれ育ったことを胸はって誇れる日は、もうすぐ目の前まで来ていることを実感させていただきました。

私は部落出身の教師ですが、自分自身は高校1年生まで自分の住んでいるところが被差別部落だと知らずに育っていました。高校1年生の時、クラスメートに「その地区ってこわいところなんでしょう?」と聞かれ、「そんなこわいところなんてあるのかなあ?」と答えていた私でした。差別されて初めて自分の立場を知らされたのです。ショックでした。何のことかよくわからないけど、それから私はずっと自分のふるさとを語らない、いや語ろうとしない、できない人間になりました。差別の話、部落の話がささやかれると決まったように黙ってしまう。ふるさとのことが話題にのぼると逃げるようにその場を離れ、話を変えてしまう私になっていました。

教師になって4年目、母校の中学校にかえることになった。そこで9年間同じムラの子どもたちと一緒に学習会や部落問題学習をして、やっと差別に立ち向かえるようになっていったような気がします。

今学校の中で5、6人（580人中）の部落の子どもたちととても厳しい状況の中ですが、板野中のすばらしい全体学習をめざしてこれからも精進していきたいと思います。

三重県 松阪西中学校

生徒の皆さんのが深まり広がりに感動しました。これだけ大勢の仲間の前で、宣言も含め自分の背景を語れる・・・そこにはその子たち一人ひとりの自覚と自信、そして信頼があると感じました。

私は「同推」を現在しながら部落の子たちと語っていますが、今日のように本当に本気で思いのたけを話していただろうかと考えさせられました。

今日のテーマのような「ふるさとへのほこり」、本音とスローガンがぶつかり合い、みんなが本気で話し合う学習は初めてです。そしてまた、それを支部の隣保館とかじやなく学校の、しかも全校生徒という集団で、しっかりつなげていくとは信じられません。すごいと思います。

私の気持ちちは誇りがもてない・・・というのが本音で、それは差別する人間がいる限り誇りはもちたくてももてない・・・そう思います。

スローガンとしてがんばっていきたいと宣言したり、するのはかつこいいし、そう言わせたい気持ちもすごくわかりますが、その最後のところの学習でどう生徒たちに言ってもらいたかったのかが正直、私はわかりません。

子どもたちなりに本音で言い、ある意味でそれはいきづまってしまったけど、それはそこで終わってもよかったですではないでしょうか？

解放への展望をスローガンとしてなく生徒のさんは確実に自分の問題としていることがうらやましいし、頼もしいし、ぜひ今日のことをもちかえり、実践していきたいです。ありがとうございました。

福岡県 吉川小学校

子どもの率直な考えが、思いがどんどん出てくるのに感動した。うちの学校の子どもにこれだけのことができるかということを考えてみると難しいような気がする。

「差別をなくしていきたい」「差別に負けない」「差別に立ち向かおう」とする子どもの様子、気持ちが痛いほどわかった。

いろいろな思いの中で生きている子どもを、これからも育ててやってほしい。

香川県 本島中学校

教師の差別をなくそうとする思い、生徒の差別に対する思いが、全体学習の中によく表れていたように思える。とくに部落の子どもたちの差別をなくそうとする思いが全体の中で表現されていましたに感動を覚えました。

香川県 城辰小学校

毎日子どもたちと語り合う中で逃げたいと思うことがあります。逃げても解決できるものではないはずなのに、逃げれず、倍、いや3倍になって自分の重荷となって残り、さびしい思いをすることを今日あらためて学ぶことができました。

逃げていた自分がなきなく恥ずかしい。みんなの語り合いの中で私はどうか、私が部落差別についてどう考えていたか・・・なんて、暗くさびしい思いでおったんだろうか？人間赤い血の流れている人間として、今自分がせないかんこと、それは自分の本音をしっかり語っていくことなんだと思う。ほんなら何を語っていくか。それは自分の中にこんなにも多くの差別意識があるということ、その醜い心をすべて絞りだすこと。それが大切だと、そしてそれが差別と闘っていくための大変な一歩だと思うからです。

昨年もこの全体学習に参加させていただいたとき、「“部落”ってどこにあるんですか」とい

う問い合わせに、学習会に参加していた人が「ぼくの心の中です。みんなの心の中です」って言い切った言葉が今も鮮明に残っています。昨年度の学習が生き、そしてふるさとを誇りに思う、語れる自分をつくりあげ、みがきあげ、美しく生きていこうとする姿が私の心をうちました。

2Eでみせてくれた苦しい本音の部分、しっかり受けとめ全体学習の中で語り合われていたことが私の明日への勇気となりました。本当にありがとうございました。

穴吹の地でみなさんのあとを追いがんばっていくことを誓って終わらせてもらいます。言い尽せないものをたくさん残して・・・

徳島県 穴吹中学校

何故部落問題を語るときこんなに重くなってしまうのか、考えました。部落の子どもたちが発表するのを見てこの板野町の様子をかいまた見たような気がしました。

学習会の指導しておられる先生の発言、私も部落の人間として少しおかしい。もっと自分自身を解放してほしいと思います。それからの発言にしてほしい。

所属不明

鶴尾中学校で全体学習がスタートしました。（11月16日）

子どもたちが、教師が板野中とつながっています。

香川県 鶴尾中学校

40才になろうとしているのに、まだ自分が部落出身教師であるということを生徒の前で打ち明けられずに、教壇に立って部落問題学習をしている自分を恥ずかしく思うし、苦しい日々です。早く早く立ち上がろうと思います。

生徒たちの前で自分が部落出身であると言える日が、私が差別から解放された、部落差別に勝った日であると思う。早くなるようにしたいと思う。

まだ名前が書けません。

子どもたちが確実に2時間の間に自分を見つめ他人の意見を聞き、悩みながら成長していく姿に感動しました。

板野中には真実を語り希望を与えてくれる教師集団と子どもたちがいること、差別と闘い一人ひとりが輝く発光体となっていく営みがあるのが誇りだと思います。ありがとうございました。

関西大学

学習の過程によるところが大きいのでしょうが、歴史的な事実の中から自分たちの祖先の苦しみや悲しみを自分自身に投影し、マイナスイメージの中から怒りを憶え、そこから自分が何をしたらいいのかを子どもたちが考えていくものと思われます。

ただこの板野町には部落解放の歴史はなかったのでしょうか。その中から子どもたちが自信（部落に生まれたこと）を持つことにつながっていく指導もあってもいいのではないかでしょうか。

鳥取県 湖南中学校

いい教育をしておられますね。言葉豊かに自らを語る生徒たちに感動しました。

先生方の熱意があつてのこと。「教育は人なり」を実感しました。

すばらしい子どもたちですね。板野町が誇れる子どもたちばかりだと思いました。多くを学びました。ありがとうございました。1年生の子たちと話をしました。

鳥取県 教職員組合